

公益財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

2012(平成 24)年度 事業報告書

Ⅰ. 全体

1. 2012 年度の総括

あおぞら財団は、2011年7月に財団法人から新たに公益財団法人に組織変更を行い、新たなスタートを切った。また、2010年度から第4次事業計画(3カ年計画)をスタートさせ、そのなかで「環境フロンティア講座の開催」、「自転車を活かしたまちづくりの推進」、「あおぞらビル1階スペースの活用」、「情報発信・広報活動の充実」の4事業を重点事業として位置づけ、2012年度は、その最終年度であった。

まず、あおぞらビル1階の「あおぞらイコバ」であるが、2011年度に壁面緑化を行うなどハード面での整備を受けて、2012年度は野菜市、ジャズコンサートなど多彩な催しを行うなど地域交流スペースとしての利用が広がった。環境フロンティア講座は、座学としての環境講座は開催しなかったものの、東日本大震災の被災地への支援交流ツアーを2012年度の環境フロンティア講座と位置づけ、複数回実施し多数の参加者をえた。なお、被災地のボランティア活動を支援するための寄付金に関しては多くの方々のご協力を得て目標額を達成した。ホームページや機関誌「りべら」の改善は好評であり、今後この改善を会員拡大や事業の発展に結びつける課題が残されている。また、個別事業に関しては、菜の花プロジェクトなどの地域循環型社会の取り組み、中国を中心としたアジアとの国際交流活動、呼吸リハビリの普及をはじめとする環境保健事業などを継続的に実施した。

事業収入の減少など厳しい財政状況への対応に関しては、経費の思い切った削減と共に、寄付金の飛躍的な増加などの努力を行っていくことが必要であるとして、2012年度は、資金調達(ファンドレイジング)の強化を重点事業と位置づけて、寄付金、広告、事業協賛などに力を入れた。まだ、目立った寄付金収入等の増加には結びついていないが、2012年度は前年度に比較して一定の財政改善がなされた。

全体として、2012年度は、財団職員の減少など困難を抱えながらも、引き続き、環境、福祉、防災を有機的に結びつけた活動を行うなかで、着実に人と環境にやさしい地域の再生を目指す取り組みを前進させてきており、今後もこうした取り組みを継続的に粘り強く行っていきたい。

II. 個別事業

1. 公害のない住みよい地域づくりを進める活動(地域づくり)

1) 地域交通まちづくりの推進

(1) エコドライブの普及

- トラック協会、池田市と共催で「サイクル&エコカーニバル 2012in 池田」開催(11月4日)。

(2) 自転車を活かしたまちづくりの推進

- 2012年4月7日に自転車イベント「第二回御堂筋サイクルピクニック」を実施。続いて、9月22日には第3回を開催。自転車マナーの啓発と御堂筋に自転車レーンを作ってほしいというアピールを、御堂筋を縦列走行し行うとともにイベントを行なった(第三回:参加者約300人)。
- 「第3回まちなか自転車空間コンクール～人も自転車も居心地よく～」を実施(募集3/1～4/30)し、50点の応募があった。
- その他、自転車寺子屋、自転車まち巡りツアーなどを行なった。
- 大阪でタンデム自転車を楽しむ会として体験会を実施、また、あおぞら財団としてタンデム自転車の貸し出しを行なった(年間体験者約1,000名)。
- 中央区放置自転車対策事業Dプランとの連携(株式会社都市空間企画研究所/中央区役所)

2) 西淀川再生プロジェクト

(1) 西淀川道路環境対策連絡会を通じた取り組み

- 第16回西淀川道路連絡会が11月20日に開催され、提案づくり(大型車対策、歩行者・自転車にやさしい沿道対策・交通環境対策を! PM2.5の環境基準の早期達成に向けた対策、歌島橋交差点改良工事に関する要望)をサポートしている。

(2) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進

① 西淀川道路検討会を通じた取り組み

- 2012年度は、道路検討会は未開催。提言 part6 に基づいて活動を実施。

② 西淀川における参加型交通まちづくりの推進

- 2009年度に実施した交通まちづくり意見交換会を継続・発展し、西淀川交通まちづくりプロジェクト～「災害につよいまちづくり・移動のしやすいまちづくり」を実施。明石市・堺市・大阪市のNPOが協働で、災害時における要援護者支援のための人材育成プログラムづくりを進めた。各地でセミナーや避難訓練を開催、結果を防災まちづくり通信 vol2 にとりまとめた(独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業として実施)。

③ 持続可能な社会づくりのための協働イノベーションに関する調査・研究

- 大阪大学大学院法学研究科大久保規子教授等が中心となって進めている「持続可能な社会づくりのための協働イノベーション～日本におけるオフィス3原則の実現:グリーンアクセスプロジェクト」に関する研究に協力(2012年度は、全国自治体データベースの作成、研究会・国際シンポジウムの開催など)し、協働の仕組みづくりに取り組む。

(3) 西淀川からの「環境住宅」発信プロジェクトの推進

- 西淀川から住まいと暮らしを考える環境住宅研究会(Green研究会)を中心に、協力者を募りながら、西淀川区内での環境に配慮した住宅づくり(改修1件)、グリーンデザイン講座、セルフ工事講座などを開催(公益財団法人大阪府都市整備推進センター平成24年度助成事業)。

(4) 西淀川における企業との連携によるエコ・プロジェクトの推進

- 区内の未利用地や工場建物などへの太陽光発電パネルの設置に向けて調整を行なったが、実現しなかった。

(5)西淀川地域におけるまちづくり活動の支援

- 地域福祉アクションプラン推進事業、NPO 法人西淀川子どもセンター、西淀川区政会議など、西淀川地域における諸々の活動への支援を行なった。

(6)菜の花プロジェクトから始める地域循環型社会への取り組み

- 西淀川区内外に約 50 箇所の廃油回収所で廃油回収を実施。全体の回収量は 2012 年度 6397ℓ である。西淀川区の回収拠点での回収分は 5558ℓ である。これは、西淀川区の家庭(町会所属世帯)から出る廃油の 7.3%にあたる。
- 菜の花プロジェクト エコでつながる西淀川リーフレット 1 万部を作成。活動への参加を呼び掛けるのに利用。

3)地域で取り組む交通まちづくりの支援(人材育成、情報発信など)

(1)道路交通環境市民塾の記録集発行、講座の開催

- 市民塾記録本作成を進める予定であったが、取り組みが中断している。
- 道路環境市民塾として『第 1 1 回全国路面電車サミット 2 0 1 2』に全国路面電車サミット 2 0 1 2 大阪・堺実行委員会に参加。
- 運営委員会では、運営委員が『道路環境問題』に関する問題を各自持ち寄り討論という形で運営を継続。

(2)参加型アセスメント講座の開催

- 環境再生保全機構より『環境保全戦略講座(環境アセスメント分野)』を受託。『エネルギー問題と環境アセスメント』を大阪で開催(10/27、11/11)。定員 30 名で 31 名の参加があった。

(3)講座の企画・運営、講師・アドバイザー派遣、コンサルティング

- 徳島市環境リーダー推進事業(徳島市)において、環境講座「飛び出せ!ぶらりエコカフェ~徳島の環境を感じてみよう~全 6 回」や報告・交流会の開催などの企画・運営をサポート。
- 東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会の委員(藤江)として参加。

2. 資料館の運営とネットワークづくり(資料館)

1) 「西淀川・公害と環境資料館」の日常業務の充実

(1)資料の保存・整理(目録の整備、資料の電子化含む)

- ・エコミューズ所蔵資料の整理を2人のアルバイトで行い、書庫資料約4200点、開架図書資料約80点を新たに整理した。

(2)資料館の情報提供、視察受入、展示

2012年4月1日から2013年3月31日まで。のべ367人の来館者があった。2006年の開館から累計3432人である。

日時	主な受け入れ
4月4日	淀川勤労者厚生協会
5月24日	大阪市立淀商業高等学校 ボランティア部
5月25日	京都大学 日中共同SD人材育成事業
5月25日	韓国 釜山市河西区 行政職員受け入れ
5月26日	大阪経済大学 柏原ゼミ
5月27日	大阪市立大学 除本ゼミ
6月3日	民医連 医学生受け入れ
6月23日	京都産業大学 焦ゼミ
6月25日	関西学院大学 ESD 授業
6月26日	神戸大学 交換留学生
6月27日	立命館大学 交換留学生
8月1～2日	京都精華大学環境教育実習
8月3日	アサヒビール若武者育成塾
8月3日	四日市市環境保全課
9月18日	NPO 法人環不知火プランニング
10月12日	龍谷大学 清水ゼミ
10月23日	司法修習生研修
11月21日	大阪市立大学 除本ゼミ
2月14日	淀川勤労者厚生協会主任研修
2月21日	淀川勤労者厚生協会主任研修

(3)資料館の運営体制の確立

- ・毎月1回、小田康徳館長と担当職員による資料館定例会議を行った。
- ・歴史研究者や資料館博物館等の専門家からなる運営協議会を2013年3月18日に行った
- ・資料館基金は9,200円集まった。
- ・本棚の寄贈を受けて、展示室で公害反対運動の資料が閲覧しやすいように、レイアウトの変更を行った。

(4)広報活動(資料館だより、展示パネルの活用)

- ・資料整理から得られた知見を、館の活動などを『資料館だより』(季刊発行 A4版両面印刷)やホームページ、ブログ等を通じて発信した。

(5)研究

- ・西淀川公害患者と家族の会による西淀川公害研究に協力をした。
- ・『西淀川公害と40年』(ミネルヴァ書房、2013年)を刊行した。

(6)西淀川地域との連携

- ・2012年9月10日に西淀川図書館で出張展示活動（映画「娘たちは風に向かって」から見る西淀川）を行った。

2) 公害地域の現在を知る、情報を集める、伝える

(1) 公害地域の今を訪ねるスタディツアー

- ・他地域で実施できる道を探して、四日市および日本科学者会議岡山大会（2012年9月16日）、日本環境教育学会第23回大会（2012年8月12日）で発表および説明を行った。
- ・西淀川では、スタディツアーの手法を使って、京都精華大学の環境教育実習を実施した（2012年8月1～2日）。大阪ガスへの訪問が実現した。

(2) 情報発信

- ・環境再生保全機構「ホームページコンテンツ『大気汚染と裁判』に係る掲載情報の拡充等業務（公害裁判に関する公開資料の選定および電子化並びにコンテンツの作成等）」事業を請負った。四日市および水島地域の裁判資料を整理し、電子化を行い、ホームページコンテンツの作成を行った。2012年度は裁判資料の整理に取り組み、倉敷は準備書面と証人調書、四日市は証人調書が電子化された。それらの情報は環境再生保全機構のホームページ（<http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/>）に掲載される予定となっている。

3) 西淀川地域の記録の収集

(1) 語り合う場をつくる

- ・12月17日に「あおぞらいこば佃でみせ ちよっと昔の佃どんなところ」を佃会館にて開催。25名が参加して、佃の歴史について意見交換を行った。
- ・3月24日に「あおぞらいこば福でみせ 福の漁港どんなところ」を開催。

(2) 発信する

- ・上記、「佃でみせ」と「福でみせ」で収集した情報をもとに、パンフレットとホームページを作成した。

(3) インタープリター養成

- ・3月25日に研修受け入れの方法を見直すための講座を開催した。

4) ネットワークづくり

(1) シンポジウム「地域資料の保存と活用を考える」への参画

- ・桃山学院大学地域連携プロジェクトと共同し、研究会に参加した。

2013年2月25日	地域資料拡大研究会
------------	-----------

(2) 他の資料所蔵機関等との連携

- ・公害問題資料を所蔵する各地の団体との連携をはじめ、大阪歴史資料関係機関との情報交換を行った。
- ・大阪ミュージアム構想にエコミュージズを登録した

3. 公害の経験や地域資源を活かし、環境まちづくりの担い手育成 (環境学習)

1) 学校と協力し西淀川の公害・環境学習

(1) 西淀川 ESD ネットワークの継続・拡大

- ガールスカウト大阪 26 団と合同で緑の募金活動を実施した。(4/15 日)
- 『キャンドルナイト学生実行委員会』を開催 (4/19、5/23、7/23、8/23、9/14、10/14、12/6)。大学生が主体となった実行委員会で企画・運営をしている。夏至キャンドルナイトを開催。(6/22 金) 東淀川区民まつりで廃油キャンドルづくりコーナーを担当 (9/16 日)、西淀川区民まつり (9/29 土)、姫里なかよしプラザまつり (10/14 日)、西淀川高校環境教育フェスタ (10/20 土)、西淀川清掃工場ゴミゼロプロムナード (11/4 日) に廃油キャンドルづくりで出展。
- 西淀川全体で廃油回収を広めるために「エコでつながる西淀川全体会議」を開催 (8/2 木、11/28 水、2/3 日)
- 『キャンドルがナイと！inNY 学生実行委員会』(大学生が主体となった実行委員会) で企画・運営をし、そのメンバーらと西淀川高校生らが中心となり夏至にあわせキャンドルナイト (6/22) と冬至廃油キャンドルナイト (12/22) に開催した。
- 佃南小学校の協力を得て「廃油回収ポスターコンクール」を開催。佃南小学校 5、6 年生人 57 が応募。最優秀作品をポスターとして印刷し、廃油回収の呼びかけに使う。

(2) 西淀川公害をわかりやすく学習するお手伝い

- 西淀川高校で西淀川公害の授業と語り部を実施。(2/7)
- 佃西小学校で西淀川公害の語り部の授業を実施。(3/6)

(3) 学校ですすめる環境学習を支援

- 西淀川高校文化祭へ出展 (11/2)

2) 西淀川の環境まちづくりの担い手を育成

(1) 小学生ととりくむ、自然・環境調査

- 子どもゆめ基金の助成金を受け、『にしよ環境・子ども提案づくり』を実施。『タンポポ調べ (4/21、参加者 56 人)』『セミのぬけがら調べ(8/25 土、参加 52 人)』『淀川親子ハゼ釣り大会 (9/15 土、参加 77 人)』『空気の汚れを調べ&にしよど環境・子ども提案づくり (12/27、参加 111 名)』を開催。空気の汚れ調べでは、西淀川区長が参加。子どもたちの提案と質疑に回答。

(2) 都市部の自然体験を通じた未就学児の環境教育モデルづくり

- よどっこ保育園、みどり保育園の協力で『西淀公園の自然で遊ぼう 身近な自然を感じる体験会』を開催 (11/29、園児 25 名、引率の先生 6 名参加)

(3) 西淀川の自然・歴史を活かした環境学習の場づくり

- ECO まちネットワークよどがわ、緑陰道路サロン等の有志と、中島大水道跡について取り組む「中島水道サロン」を組織。まちあるきを実施 (6/16 土、11/23 金祝、3/2 (土))
- 矢倉海岸定例探鳥会を開催 (4/7、5/5、6/2、7/7、9/1、10/6、11/3、12/1、1/5、2/2、3/2)。

4) 交通環境学習の推進

(1) フードマイレージ教材の普及

- 2012 年度の教材の貸出は、大人バージョン 36 団体、小学生バージョン 17 団体である。
- 土木学会でフードマイレージ買い物ゲームについて発表。(7/28 土)
- 高槻市小学校教育研究会総合学習部の依頼で高槻市バージョンを作成。
- 吹田市わくわくの郷と協働して吹田市バージョンを作成。

(2)今までの蓄積をいかし交通環境学習プログラム実践

- 11/4 サイクル&エコカーニバル（池田市）へチャリンコチャンピオンを出展。

5)近畿圏・環境学習ネットワークづくり

(1)近畿圏の環境学習の取組を活発にする

- エコネット近畿『第8回 近畿の環境団体情報交流会』に参加。

(2)『生物多様性』近畿圏の提案・活動の場づくり

- 独立行政法人 環境再生保全機構より委託を受け「環境保全戦略講座（生物多様性分野）」の企画・運営を行った。（12/15-16）参加者は1日目 20名、2日目 21名。

4. 公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進める活動(環境保健)

1) 高齢認定患者および呼吸器疾病患者への呼吸リハビリテーションの実施促進・サポート

- 2012 年度は、環境再生保全機構より、ぜん息・COPD 予防等情報発信事業に係る「COPD 患者等の QOL 向上のための呼吸リハビリテーションの普及及び地域ネットワークの構築事業(大阪ブロック)」を受託し、西淀川区において呼吸リハビリの普及に取り組んだ。
- 行政、医師会、地域医療機関の参加による検討会の開催
 - ・ 第 1 回検討会 2012 年 8 月 7 日(火) 18:30~20:30
 - ・ 第 2 回検討会 2013 年 2 月 17 日(日) 11:00~12:00
- 医療従事者向け講習会の開催
 - ・ 第 1 回【報告とワークショップ】 1 月 22 日(火) 18:30~20:30
 - ・ 第 2 回【講座と実技】 2 月 17 日(日) 13:00~16:30
- 患者向け講習会の開催。
千北診療所は 5 回(7 月 19 日、9 月 20 日、11 月 15 日、1 月 17 日、3 月 21 日)
姫島診療所は 5 回(7 月 20 日、9 月 21 日、11 月 16 日、1 月 18 日、3 月 15 日)
のぞと診療所は 2 回(12 月 14 日、2 月 8 日)
合計 12 回開催した。参加人数はのべ 145 人である。

2) 「あおぞらプロジェクト大阪」との連携

- 未認定ぜん息患者の救済制度の確立を行政に求める「あおぞらプロジェクト大阪」との連携を進めた(署名集めへの協力等)

5. 日本の公害経験をいかした国際交流(国際交流)

1)日本の公害経験資料の翻訳、及び、情報発信

(1)翻訳・情報発信

<翻訳資料>

- 地域医療からとらえる西淀川公害―「医療の社会化」運動から公害問題へ（尾崎寛直著）（日→中）
- 都市公共自転車調査報告書（孟斯著）（中→日）

(2)基金創設のPRと寄付協力の呼びかけ

2)アジアを中心とした環境NGO等との活動交流

- 北京・天津を訪問（2013年2/26～3/1）し、中国の環境NGOとの交流、また大気汚染地域の視察を行いました。
- 「西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）」にて、海外からの視察受け入れを行なった。

3)日本における日中環境問題についての交流会の開催

(1)日中環境問題サロンの開催

- 2013年2月2日15時～17時（於：あおぞらビル3階グリーンルーム）にて日中環境問題サロン2013「日中の理解と協働に向けて：中国環境NGOの活動を聴く」を開催しました。

4)海外からの視察受け入れ、資料の作成

- 中国の環境NGOのメンバーを迎えて、日中公害・環境問題に関する研修プログラムを実施しました（2013年1/28～2/2）。

5)公害・環境問題に関する国際協働事業の実施

- 日中両国におけるNGO同士が互いの取り組みや課題を共有し、環境改善につながる環境NGO協働事業の実施を検討（菜の花プロジェクト、エコドライブ、フードマイレージなど）

重点事業

- 2009 年度より、財団 10 年の蓄積と弱点、財団の使命という視点からアプローチした将来構想に基づく重点プロジェクト（環境フロンティア講座、自転車を活かしたまちづくり、あおぞらビル 1 階交流拠点化、情報発信）を進めており、他の取り組みと連携させながら、展開するもの。
- 当面 3 年間実施し、見直しを図る。

1)環境フロンティア講座の開催

- 本講座は、人づくり・人材育成の中心的な取り組みとして、財団の人的つながりを生かした財団独自の質の高い、濃い内容の環境指導者育成を目指し 2009 年度より開講している。
- 第 5 期は東日本大震災から 1 年が経ち、被災地の現状を知ることと、復興支援を合わせた「被災地エコツアーリズム体験ツアー」を企画し、(6/28 木-7/2 月、11/29 木-12/3 月) に実施した。
- 大阪経済大学の研究室の防災教育スタディツアーをコーディネートした。(9/27 木-10/1 月)

2)地域交流スペース「あおぞらイコバ」の活用

- 患者会と連携し、地域住民が気軽に立ち寄ることができる場づくりを進めてきた。定期的な利用としては、毎月一回の「あおぞら野菜市」と月 3 回のフルーツ教室へ貸し出しをおこなっている。新たな利用としては、パン作り教室や個展、楽器の練習場としての利用があり、地域の人に少しずつ知られるようにはなっている。
- 2012 年度の利用料の収入は 270,100 円であった。
- イコバ周辺の壁面緑化やガレージ入り口部分の芝生設置などによって、以前よりも親しみのある外観となった。

3)資金調達(ファンドレイジング)の強化

- 資金調達の手立てを確立しようと、事業計画では、企業からの寄附金集め、屋上看板、機関紙りべら広告、事務所スペース貸し業務、事業協賛、情報発信の強化をかかげた。屋上看板、事務所スペース貸し業務については、借主が見つからなかった。りべら広告については、2013 年 1 月号において、2 社から広告収入を得ることができた。事業協賛は事務局を担当している「御堂筋サイクルピクニック」の活動において、10 社から企業協賛を得た。
- オンラインによる寄附の呼びかけを新たに開始した。2012 年度はギブワンというサイトに「東日本大震災支援金」「ハモン基金(資料館基金)」「あおぞら翻訳基金」の 3 つのプロジェクトで登録をおこなった。6 月から 3 月末で 29 件、金額にして 173,000 円の寄附があり、手数料(23,575 円)を差し引いて 149,425 円の収入があった。多くは、「東日本大震災支援金」への寄附であった(163,000 円)。

4)東日本大震災支援の取り組み

- 東日本大震災支援として、地元 NGO へ 2011 年におこなった BDF 車両(1 台)の寄贈にかかった費用を寄附によって集めた。その他、被災地からハートブローチや缶詰などの商品を購入し、支援商品として販売した。

III. 情報発信・提案活動・交流

1. 情報発信

2011年10月より機関誌を「りべら」と改称し、隔月から季間発行として外部からの協力を得てリニューアルし、年報の発行も合わせて、読みやすく親しみやすい紙面づくりに努めている。2011年4月にリニューアルしたホームページはより利用しやすいサイトをめざし、外部からの協力を得て、運営・情報の更新を進める。ブログはホームページと一体に管理し、連動性を高める。SNS（Facebook、twitter）を活用し、より多くの人にHPやブログを閲覧してもらえるよう場発信に力を入れている。

また、情報を効果的に伝えていくためにメール通信「あおぞらエクスプレス」を活用する。2012年度には配信先は約1900件になった。また、新しく関わりの出来た人にあおぞらエクスプレスを送り、賛助会員への登録をお願いする。毎月初めに定期配信している「月刊あおぞら」はイベントのお知らせやあおぞらイコバの利用状況等財団の今が見えるように充実させた。ENVIROASIAへの投稿によるアジアへの情報発信しており、4件投稿できた。

【リニューアルに伴うホームページのアクセス数の変化】

	2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
	総人数	のべ	総人数	のべ	総人数	のべ	総人数	のべ
ホームページ訪問者数	22,989	62,582	22,378	57,203	40,955	107,559	88,931	196,429

2. 提案活動

各種計画へのパブリックコメントや選挙時の公開質問状提出などの提案活動、様々な公害・環境問題に関する情報、財団活動に関する情報の発信を進めていく。

2012年衆議院選挙に関する公開質問状を送付し、環境再生まちづくりに関する各候補者の回答について、HPを通じて情報発信を行った(2012年12月4日公表)。

「環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針(2012年5月)」、「今後の自動車排出ガス総合対策の在り方について(答申案)」に対する意見(2012年11月)に対するパブリックコメントを提出。

3. 交流

各事業に個別に協力を得ている研究者のネットワーク化をはかり、財団が市民と研究者団体をつなぐパイプ役を果たせるような仕組みづくりをめざす。

6月の公害被害者総行動デーへの協力をはじめ各地の公害被害者団体や、地域の環境再生に取り組む団体や市民との交流をすすめる。

また、気候ネットワークや公害環境デーの実行委員としての活動や西淀自然文化協会、日本野鳥の会、ECOまちネットワークよどがわをはじめとする地域の各種団体との協働、連携を広げる。

IV. 組織

(1)理事会、評議員会

理事会は、2013年6月10日（第4回）、10月1日（月）（第5回）、2013年2月23日（第6回）を開催した。

評議員会は、2012年6月18日（第2回）を開催した。

(2)事務局(研究員・特別研究員)

毎週1回の事務局会議、常務会を定期的（月1回）に開催し、事務局全体で情報を共有し、事業の進捗状況や今後の事業展開、組織運営のあり方などを討議しつつ、運営を進めてきた。

(3)会員

情報発信や各種イベント・事業等を通じて賛助会員への呼びかけをおこなったが、2013年3月末時点で、会員の数は、次のとおりである。会員数合計：162。個人127、学生1、法人15、団体19。2012年6月10日に「あおぞら活動総選挙～財団会員のつどい～」を開催した。

(4)ボランティア、アルバイト・スタッフ

ボランティアについては、だれもが気軽に参加してもらえるよう設けた「ボランティアの日（毎月第一金曜）」を継続している。2012年度のボランティア参加者は延べ48人である。高校生、大学生、公害患者など、幅広い参加がある。

研究員の事業をサポートするアルバイト・スタッフについては、定例（週に1、2回）で6名を雇用している。その他、この間、アンケート入力等、請け負った事業に応じ臨時に雇用をしている。

(5)インターン

8、9月の夏休み期間を中心に、大学生のインターン生11名を受け入れた。インターン生は興味・関心に応じ、各分野の事業を担当した。受け入れ人数は10名を予定していたが、それを上回る応募があった。

(6)視察・研修の受入、講師派遣

環境省職員研修、JICA（国際協力機構）研修、韓国司法修習生や大学ゼミなどからの視察・研修の受入を行なった。

また、環境再生・地域再生の取組み、環境学習、NPO、ボランティアなどに関する授業や講演会、講座等への講師派遣を行なった。

V. 財務・法人体制

公益財団法人に移行したことにより、寄附者には税控除が適用されることから、寄附の呼びかけなどをこれまで以上に行っているが、基金の運用収入・受託金等の減少により、厳しい財務状況にある。